

略年譜

岩間 暁子

学歴

- 1987年 4月 北海道大学文I系 入学
1991年 3月 北海道大学文学部行動科学科(社会行動学専攻) 卒業
同年 4月 北海道大学大学院文学研究科修士課程(行動科学専攻) 入学
1993年 3月 北海道大学大学院文学研究科修士課程(行動科学専攻) 修了
同年 4月 北海道大学大学院文学研究科博士後期課程(行動科学専攻) 入学
1996年 3月 北海道大学大学院文学研究科博士後期課程(行動科学専攻) 単位取得退学

学位

- 1993年3月25日 文学修士(北海道大学)
2008年3月25日 博士(文学)(北海道大学)

職歴

- 1993年 4月 北星学園大学非常勤講師(～ 1994年3月)
1995年 4月 日本学術振興会特別研究員(DC) (～ 1996年3月)
1996年 4月 厚生省人口問題研究所研究員(～ 1997年3月)(備考:1996年12月1日の組織改編により、国立社会保障・人口問題研究所研究員に配置換え)
1997年 4月 和光大学人間関係学部人間関係科学科専任講師(～ 2002年3月)
1999年 4月 立教大学社会学部兼任講師(～ 2003年3月)
2002年 4月 和光大学人間関係学部人間関係科学科助教授(～ 2007年3月)
同年 4月 北星学園大学社会福祉学部兼任講師(～ 2002年9月)
2004年 4月 (韓国)聖公会大学校社会文化研究院客員助教授(～ 2004年7月)
同年 8月 カリフォルニア大学ロサンゼルス校社会学部客員研究員(～ 2005年3月)
2007年 4月 和光大学現代人間学部現代社会学科准教授(～ 2009年3月)
同年 4月 立教大学社会学部兼任講師(～ 2008年3月)
2009年 4月 立教大学社会学部社会学科准教授(～ 2010年3月)
2010年 4月 立教大学社会学部社会学科教授

委員歴

- 2004年 3月 毎日新聞社人口問題調査会専門委員(～ 2008年3月)

- 同年 9月 日本家族社会学会編集委員(～ 2010年9月)
 2007年 1月 数理社会学会編集委員(～ 2009年3月)
 2009年 5月 社会調査協会研究活動委員会委員(～ 2015年3月)
 同年11月 日本社会学会国際化戦略特別委員会委員(～ 2012年11月)
 2010年 9月 日本家族社会学会『家族社会学研究』専門委員(～ 2016年9月)
 2012年12月 日本学術振興会科学研究費委員会専門委員(～ 2014年11月)
 2013年10月 日本社会学会『社会学評論』専門委員(～ 2016年10月)
 2014年 5月 社会調査協会広報委員会委員(～ 2020年3月)
 同年10月 日本学術会議連携委員(～ 2022年9月)
 2018年12月 日本家族社会学会日本家族社会学会賞第8回奨励論文賞専門委員(～ 2019年9月)
 2020年 9月 日本家族社会学会編集委員(～ 2022年9月)

競争的資金(研究代表者分)

- 1994年 10月～ 1995年3月 「現代日米女性の社会移動の国際比較計量分析」, 松下幸之助記念財団 松下幸之助記念財団研究助成.
 1999年4月～ 2001年3月 「現代女性の社会階層とライフスタイル選択に関する社会学的研究」, 日本学術振興会科学研究費助成事業奨励研究(A).
 2002年4月～ 2004年3月 「母子世帯の階層状況および社会的支援に関する社会学的研究」, 日本学術振興会科学研究費助成事業若手研究(B).
 2005年4月～ 2006年3月 「現代社会におけるマイノリティの総合的研究——東アジア・アメリカ・ヨーロッパの国際比較」, 日本私立学校振興・共済事業団平成17年度学術研究振興資金.
 2012年～ 2016年3月 「マイノリティ・弱者・移民の相互連関に関する理論的・実証的研究——国際比較を中心に」, 日本学術振興会科学研究費助成事業基盤研究(C).
 2015年4月～ 2019年3月 「ポスト多文化主義時代におけるマイノリティと移民の包摂に関する国際比較研究」, 日本学術振興会科学研究費助成事業基盤研究(C).

資格

- 2005年10月 専門社会調査士取得

受賞

- 2009年5月 第一回昭和女子大学女性文化研究賞(『女性の就業と家族のゆくえ——格差社会のなかの変容』2008年, 東京大学出版会), 昭和女子大学
 2010年3月 第七回生協総研賞(『女性の就業と家族のゆくえ——格差社会のなかの変容』2008年, 東京大学出版会), 公益財団法人生協総合研究所

研究業績

【論文】

- 1992 「社会階層と女性の不公平感の発現」『現代社会学研究』5(5): 62-85.
- 1993 「現代日本の階層構造における女性のライフイベントおよび階層意識に関する社会学的研究」(修士論文).
同 「共分散構造分析によるデータ解析——SAS CALISを使って」『北海道大学大型計算機センターニュース』25(5-6): 34-94, 白倉幸男, 中井美樹との共著.
同 「社会調査のためのSAS利用とデータセットの作成——ロータス1-2-3によるデータ入力とファイル転送」『北海道大学大型計算機センターニュース』25(5-6): 5-23.
- 1994 「現代女性の結婚による地位達成」白倉幸男編『現代の社会階層と社会意識』(社会移動研究会), 43-63.
同 「社会的不公平の認知メカニズム——権威主義および無力感との関連」『現代社会学研究』7(7): 100-122.
同 「対応分析のための質的データの解析——SAS CORRESPを用いて」『北海道大学大型計算機センターニュース』26(2): 7-63.
- 1997 「少子化と子育て支援政策の支持——第2回人口問題意識調査のモデル分析」『人口問題研究』53(3): 31-35.
同 「性別役割分業と女性の家事分担不公平感——公平価値論・勢力論・衡平理論の実証的検討」『家族社会学研究』9(9): 67-76, 日本家族社会学会.
- 1998 「現代女性の脱主婦型ライフスタイルとその背景——社会的地位と出身家庭の影響」『現代のエスプリ』366: 77-87.
同 「産業界と男性の文化——日本経済のサービス化と文化資本の構造」片岡栄美編『1995年SSM調査シリーズ18 文化と社会階層』(1995年SSM調査研究会), 113-132.
同 「文化資本の蓄積における経済資本の役割——男性の文化活動への参加と経済資本」片岡栄美編『1995年SSM調査シリーズ18 文化と社会階層』(1995年SSM調査研究会), 147-158.
同 「社会的不公平感の発現とジェンダー——「分配原理」に関する主観的リアリティとの関連」宮野勝編『1995年SSM調査シリーズ8 公平感と社会階層』(1995年SSM調査研究会), 133-148.
- 1999 「イギリスと日本における階級・階層研究の動向」『和光大学人文学部・人間関係学部紀要別冊エスキス』, 93-97.
同 「出産の意思決定に見られるジェンダー構造」『平成9年度厚生科学研究費(指定研究)報告書 家族政策および労働政策が出生率および人口に及ぼす影響に関する研究』, 178-184.
同 「ジェンダーシステムと育児コスト——「出産する／しない」という選択の規定要因について」『厚生省科学研究費総合報告書(平成8年度～10年度) 家族政策および労働政策が出生率および人口に及ぼす影響に関する研究』, 565-593.
同 「晩婚化と未婚者のライフスタイル」『人口問題研究』55(2): 39-58.
- 2000 「変わる家族観、変わらない家族の実態」『和光大学人間関係学部紀要』4: 3-16.

- 同 「コメントへのリプライ」『和光大学人間関係学部紀要』4: 55-61.
- 同 「『家計調査』に見られる戦後の食文化の変遷」『和光大学人間関係学部紀要』4: 55-61.
- 同 「文化活動の学習と伝達」『階層文化とライフスタイルの社会学的研究——日本の中流階層のハビトゥスと「場」の文化の効果』, 17-37.
- 2001 「社会階層と家族の統合性——文化活動を通じた統合性の維持」『和光大学人間関係学部紀要』5: 127-147.
- 2003 「社会階層研究と社会関係資本——ホームレス自立支援策における社会関係資本の重要性」『和光大学人間関係学部紀要』7(1): 19-37.
- 同 「家族政策研究と社会関係資本」西岡八郎編『「世代とジェンダー」の視点からみた少子高齢社会に関する国際比較研究 平成14年度総括研究報告書』, 55-76.
- 2004 「カリキュラム構成から見た社会調査実習の現状と課題」谷昂編『社会調査の教育と実践化についての総合的研究(平成14～15年度科学研究費[基盤研究(A)(1)研究成果報告書])』廣済社, 177-188.
- 同 「日本の母子世帯の社会階層と貧困に関する現状と政策的課題」『和光大学人間関係学部紀要』8(1): 3-24.
- 同 「家族の多様化とソーシャル・サポート——家族の経済機能とケア機能に着目して」西岡八郎編『「世代とジェンダー」の視点からみた少子高齢社会に関する国際比較研究平成15年度総括研究報告書』, 127-146.
- 2005 “Social Stratification and the Division of Household Labor in Japan: The Effect of Wives’ Work on the Division of Labor among Dual-earner Families,” *International Journal of Japanese Sociology*, 14(1): 15-31.
- 2006 「女性の就業が出生意欲に及ぼす影響のジェンダー比較」『人口問題研究』62(1-2): 20-34.
- 2008 「『格差論』の現在と家族・労働・福祉——『中流論争』との比較から」『和光大学現代人間学部紀要』1: 183-194.
- 同 「ディスカッション」『和光大学現代人間学部紀要』1: 213-237, 伊藤るり, ユ・ヒョジョン, 挽地康彦, 渋谷望ら参加.
- 同 「シンポジウムを終えて」『和光大学現代人間学部紀要』1: 238.
- 同 「既婚女性の就業行動に関する日韓比較」有田伸編『東アジアの階層ダイナミクス (2005年SSM調査シリーズ13)』2005年SSM調査研究会, 157-179.
- 同 『現代日本における女性の就業と家族の変容に関する社会学的研究——社会階層とジェンダーの視点から』(博士学位請求論文) .
- 2009 「ジェンダーと子育て負担感に関する日本・ドイツ・イタリアの比較分析」『人口問題研究』65(1): 21-35.
- 2010 「『マイノリティとは何か——概念と政策の比較社会学』への中原洪二郎氏の『書評』に答える」『理論と方法』25(1): 161-164, ユ・ヒョジョンとの共著.
- 同 「『社会階層』『ジェンダー』『民族』から見る日本社会の現状と課題」『生活協同組合研究』416: 50-56.
- 同 「日本における『社会階層と家族』の研究を振り返る——階層研究と家族社会学の架橋のために」『家族社会学研究』22(2): 177-189.
- 2011 「女性労働者の非正規雇用と格差拡大」『女性労働研究』55: 78-91.
- 2011 “Comparative Analysis of Gender and Class Inequality in Educational Attainment between Japan

- and South Korea,” MISUMI Kazuto ed. *Grant-in-Aid for Scientific Research (B) Study of an East Asian Stratification Model*, 129-145.
- 2012 「専業主婦は今後どうなるのか——ジェンダー論と階層論の観点から」(韓国語訳: 전업주부는 앞으로 어떻게 될 것인가?- 젠더론과 계층론의 관점에서, iCOOP 해외 협동조합 연구동향) 『生活協同組合研究』 442: 5-12.
- 2014 「小さな民族の広い世界——ドイツ東部のナショナル・マイノリティ『ソルブ人』を通して」『応用社会学研究』 56: 191-210, ユ・ヒョジョンとの共著.
- 2016 「韓国における多文化家族支援の実践——韓国移住女性人権センターとウォルグ総合社会福祉館の活動を通して」『応用社会学研究』 58: 341-355.
- 2020 「家族の多様化にどう対応するか(1) ——『家族のオルタナティブ』の必要性」『作業療法ジャーナル』 54(4): 356-362.
- 同 「家族の多様化にどう対応するか(2) ——『マイノリティ』の社会的包摂の必要性」『作業療法ジャーナル』 54(4): 462-468.
- 2021 「新型コロナウイルスと『家族』 ——『近代家族』への回帰と『家族』の肥大化」『作業療法ジャーナル』 55(7): 660-661.

【研究ノート】

- 2014 「デンマークとスウェーデンにおけるナショナル・マイノリティ政策の概要と現状」『応用社会学研究』 56: 241-253, ユ・ヒョジョンとの共著.

【書籍等出版物】

- 2004 「既婚男女の出生意欲にみられるジェンダー構造」目黒依子・西岡八郎編『少子化のジェンダー分析』勁草書房, 124-149.
- 同 「育児コストの地域差と社会的支援」目黒依子・西岡八郎編『少子化のジェンダー分析』勁草書房, 150-173.
- 2005 「女性の就労と夫婦の勢力関係」毎日新聞社人口問題調査会編『超少子化時代の家族意識——第1回人口・家族・世代世論調査報告書』毎日新聞社, 247-276.
- 2006 「連続的な変数の原因を説明する: 一般線型モデル(GLM)、回帰分析、分散分析——家事分担と不公平感」与謝野有紀他編『社会の見方、測り方ー計量社会学入門』勁草書房, 95-112.
- 2007 「マイノリティとは何か——概念と政策の比較社会学」ミネルヴァ書房, ユ・ヒョジョンとの共編著.
- 同 「少子化時代の夫婦関係」毎日新聞社人口問題調査会編『超少子化時代の未来学』論創社, 103-150.
- 2008 「女性の就業と家族のゆくえ——格差社会のなかの変容」東京大学出版会.
- 2009 「『昭和30年代ブーム』から『家族』を読み解く」高校生のための社会学編集委員会編『高校生のための社会学——未知なる日常への冒険』ハーベスト社 55-63.
- 2011 「ジェンダーと子育て負担感——日独伊3カ国比較分析」阿藤誠ほか編『少子化時代の家族変容——家族意識とパートナーシップ』東京大学出版会, 205-225.

- 同 「ジェンダーと社会参加」藤友里子・三隅一人編『現代の階層社会3 流動化のなかの社会意識』東京大学出版会, 325-340.
- 2012 『マイノリティ란 무엇인가: 개념과 정책의 비교사회학 (マイノリティとは何か——概念と政策の比較社会学)』Seoul: 한울아카데미 (ソウル: ハヌルアカデミー), 유·히ョジョンとの共編著, 韓国語訳者박은미 (パク・ウンミ) .
- 2014 『마이노리티란 무엇인가(「マイノリティ」とは何か)』제주대학교 재일제주인센터 (편저) 지음, 재일제주인과 마이노리티 (재일제주인센터 연구총서 2), 경인문화사 (濟州大学校在日濟州人センター編『在日濟州人とマイノリティ』(在日濟州人センター研究叢書2))景仁文化社, 369-387, 유·히ョジョンとの共著.
- 2015 『問いからはじめる家族社会学——多様化する家族の包摂に向けて』有斐閣, 大和礼子・田間泰子との共著.
- 2017 『社会階層論と家族社会学』藤崎宏子・池岡義孝編著『現代日本の家族社会学を問う』ミネルヴァ書房, 85-106.
- 2018 『階層・階級・不平等——親から子どもへ格差が受け継がれやすいのはなぜか』奥村隆編著『はじまりの社会学——問い続けるためのレッスン』ミネルヴァ書房, 147-164.
- 2020 『単独世帯と『家族』のオルタナティブ』田間泰子編著『リスク社会の家族変動』放送大学教育振興会, 207-221.
- 同 『家族の多様化と貧困・社会的排除』田間泰子編著『リスク社会の家族変動』放送大学教育振興会, 222-239.
- 2022 『問いからはじめる家族社会学——多様化する家族の包摂に向けて 改訂版』有斐閣, 大和礼子・田間泰子との共著.

【翻訳】

- 1990 メルビン L. コーン 「仕事とパーソナリティ——残された課題」『現代社会学研究』3(3): 27-46, 白倉幸男・与謝野有紀・中井美樹・中田知生と共訳.
- 1993 ジョンソン・コリーン・リー 「老年期における家族関係と友人関係」三谷鉄夫編『都市の家族関係と友人関係に関する研究 平成4年度科学研究費補助金(総合研究A)研究成果報告書』, 23-36.

【書評、文献紹介等】

- 1996 「書評：丹後俊郎・高木晴良・山岡和枝著『ロジスティック回帰分析——SASを利用した統計解析の実際』(1996年、朝倉書店)」『理論と方法』11(2): 192-193.
- 1999 「書評：中西祐子著『ジェンダー・トラック——青年期女性の進路形成と教育組織の社会学』(1998年、東洋館出版社)」『理論と方法』14(1): 141-144.
- 2000 「文献紹介：樋口美雄・岩田正美著『パネルデータからみた現代女性——結婚・出産・就業・消費・貯蓄』(1999年、東洋経済新報社)」『家族社会学研究』12(1): 26.
- 2002 「文献紹介：山田昌弘著『家族というリスク』(2001年、勁草書房)」『家族社会学研究』14(1): 56.
- 2010 「書評：牟田和恵編『家族を超える社会学——新たな生の基盤を求めて』(2009年、新曜社)」『図書新聞』2968.

- 2017 「文献紹介：筒井淳也・水落正明・保田時男編著『パネルデータの調査と分析・入門』（2016年、ナカニシヤ出版）」『家族社会学研究』29(2): 232.

【辞典項目等】

- 1999 「生涯未婚率」「少産少死」「晩婚化」「社会生活基本調査」「厚生省人口問題研究所」「社会保障研究所」「国立社会保障・人口問題研究所」庄司洋子・武川正吾・木下康仁・藤村正之編『福祉社会事典』弘文堂.
- 2000 「男子を抜いた女子の進学率」「共働き世帯と専業主婦世帯の比率」「こんなに違う！共働きの妻と夫の家事時間」「家事労働はいくらになるか」「新聞社に働く女性新聞記者の割合」「国立女子大学の数」「一姫二太郎」「ダブルインカム」「3歳時神話」「第4回世界女性会議」犬伏由子・椋野美智子・村木厚子編『女性学キーナンバー』有斐閣.
- 2002 「結婚難」「結婚年齢」「婚姻率」「社会階層とジェンダー」「少子化」「世帯」「晩婚化」「非婚」井上輝子・江原由美子・加納実紀代・上野千鶴子・大沢真理編『岩波女性学事典』岩波書店.
- 2012 「文化資本」「文化的再生産」「階級文化」見田宗介編集顧問／大澤真幸・吉見俊哉・鷲田清一編『現代社会学事典』弘文堂.
- 2013 「社会階級論・社会階層論」木村涼子・熊安貴美江・伊田久美子編著『よくわかるジェンダー・スタディーズ 人文社会科学から自然科学まで』ミネルヴァ書房.
- 2013 「女性就業の拡大は福祉社会をどう変えたのか」福祉社会学会編『福祉社会学ハンドブック——現代を読み解く98の論点』中央法規出版, 142-143.

【その他】

- 2015 「社会調査士の『質』をどのように保証していくか——韓国の『社会調査分析士』との比較から」（社会調査NOW「オピニオン」, https://jasr.or.jp/online-old/content/opinion/opinion14_201504iwama.html）.
- 2015 「自著を語る『問いからはじめる家族社会学——多様化する家族の包摂に向けて』（有斐閣スタジオ）を刊行して」641, 59-63.
- 2018 「時代とともに変わりゆく『家族』のかたち」『Link』236, 4-11.
- 2018 「あなたが描いている“家族”は思い込みかも!?【50歳から考える家族のかたち】」（Web éclat, <https://eclat.hpplus.jp/article/30340>）.
- 2022 「それぞれの幸せと困難を知ることが誰もが生きやすい社会につながる」『月刊 赤ちゃんとママ』56(16): 9.

【メディア報道】

- 2009年7月11日 「人模様：女性の就業と家族のゆくえ——立教大・岩間暁子准教授」『毎日新聞』東京夕刊, 6頁.